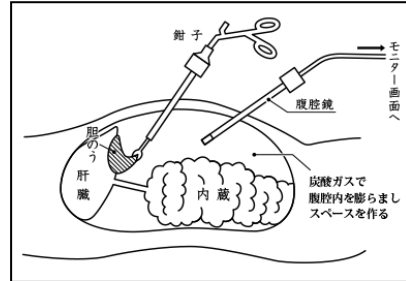


胆石症の手術は早目に

本年5月私は淡路医療センターに入院した。実は20年前に胆石が見つかり、忙しくて先延ばしにしていた。腹腔鏡下胆嚢摘出術ふくくうきょうかたんのうてきしゅつじゆつを受けるためだった。私は専門医としてたくさんの胆石症の患者さんの診察に当たってきた。たとえ無症状胆石症でも高齢になって胆石が嵌頓かんどんして胆嚢炎たんのうえんや胆管炎たんかんえん・膵炎すいえんを起こすと重症化するので、比較的若いうちに手術を勧めてきた。

胆石症の手術は安全で最近の腹腔鏡下手術は体にやさしく回復も早いので安心して受けられる手術である。これまで私はそのように患者さんに説明してきた。私もその順番になったわけである。偶然ではあるが、私の祖母は開腹胆摘術を母は腹腔鏡下胆摘術を受けていた。



私は木曜入院、金曜手術、翌週月曜退院だった。部屋の窓からは海や港・山・空が一望でき、淡路で生まれ育った私には心落ち着く、くつろげる療養環境であった。この時期は新型コロナウイルス感染拡大防止で緊急事態宣言下であり、手術が予定通り行われるかどうかは、当日まで確約できない状況であった。また20年間胆石溶解剤でしのいできたが、胆嚢がんの併発がないか心配だった。私は、自分の手術加療を無事に完了し、これまで通り医院の仕事を続けたかった。手術前日の回診があり、私の体調の確認と手術の説明があった。麻酔科の回診もあり、術後は深呼吸することが大切との助言だった。

手術3時間前まで水分と炭水化物（経口補水液）を摂取することで脱水を最小限にして手術後の回復に備えるため、当日絶食でも空腹感はなかった。また術中・術後感染予防のため手術開始30分前より抗生物質の点滴が行われた。



手術当日。午後1:30に病棟看護師と一緒にオペ室へ歩いて入室。鎮静剤の点滴が入ったかと思うと、知らない間に全身麻酔も手術も終わり気がつけば4:30に病室に戻っていた。

私には1時間ぐらいの感覚だった。癒着ゆちゃくも炎症もなく、ドレーンも入れずに短時間で終了。当日夜は思ったほど痛みもなく、足の血栓を予防するマッサージが気持ちよかった。

翌日黒い2ヶの結石を受け取った。3週間後に外来で聞いた病理は、慢性胆嚢炎まんせいだんのうえんであり、がんの合併はなかった。翌日はベッド上で安静にしていたが昼食が出た。排ガスがあり、尿や点滴の管が抜かれ、後はおへその傷をおさえながら廊下を散歩したりしていた。術後の反応性の微熱も軽く予定より1日早く3日目に無事退院となった。

術後半年間利胆剤りたんざいを服用し、MRCPで癒痕性胆道狭窄はんこんせいだんどうきょうさくがないことを確認し、通院終了の予定。同じように無症状胆石を持つ人（有症状の人はもちろん）は早目の手術をお勧めします。

手術はそんなに恐くも痛くもありません。医師・看護師・薬剤師は皆やさしく声かけしてくれます。胆嚢を取っても胆汁は肝臓でつくられています。

私のつたない体験記が少しでもお役に立てば幸いです。これからも健康第一で地域医療に貢献したい。留守中皆さんありがとう。そして心配かけた女房殿にはこれから恩返しです。（院長 曾山 信彦）



ふれあい曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2020年9月号
(第128号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



谷岡・棟近
西岡・福井
隅田・太田